

## 第1学年 道徳学習指導案

平成19年6月3日（日）2校時

1年3組 男子17名女子13名計30名

授業者 桑江 和子

### 1. 主題名 「みんなのたからもの」 3－（2）

### 2. 題材設定理由

子供たちは、「自分の命は、大切である。」「世界にたった1つしかない命」ということを知っている。しかし、自分自身を振り返って、どれだけ大切なのか、なぜ大切なのかということについて、深く考える機会はありません。

そこで、自分が生まれた時の様子を教えてもらったり、「あなたは、親にとってかけがえのない大切な宝物」というメッセージを家族からのお手紙を通して受けとれるようにする。その手紙をきっかけとして子供たちは、自分の命が家族の温かい気持ちに支えられていること、家族をはじめとした周りの人たちが自分の誕生を喜んでくれたことに気づくと思われる。一番身近な人からの温かい手紙にふれた子供たちは、自分の命の大切さを再認識し、自ら命を輝かせていこうとする気持ちを持つていくことができるようになると考え、本主題を設定した。

### 3. 本時の展開

#### （1） 本時のねらい

親の宝物は、健やかに成長している「自分」であることに気づき、感謝や愛情を感じることができる。

#### （2） 授業仮説

父母からの手紙を読むことによって、親の宝物は、健やかに成長している「自分」であることに気づき、父母への感謝の思いやこれからの自分について考えることができるであろう。

#### （3） 指導過程

過程	学習内容	かわり	指導の手立て	評価
導入	1. 自分の「たからもの」をワークシートに書いて紹介し合う。	自分 友達 資料	・一人ひとりの子供が自分の「たからもの」を主体的に考えることができるように助言する。	ワークシート 発表
展開	2. みんなで出した「たからもの」を見て「たからもの」とは何が話し合う。	自分 友達 「宝物」	・「たからもの」とは、自分の思いや願いと深くつながっていることに目を向けさせる。	発表 挙手
	3. 親にとっての「たからもの」は何が予想する。	自分 友達	・予想なので、いろんな意見が出て良いことを知らせる。	発表
	4. 自分が生まれた時の様子を書いた家族からの手紙を保護者に読んでもらう。	自分 手紙	・自分が幼い頃の写真を見たり、手紙を読んだりすることで、自分の命もみんなの祝福の中で誕生し、愛に育まれて生きていることを再認識させる	目の輝き
	5. 親へ感謝の気持ちを込めて手紙を書く。	自分 家族 手紙	・親のたからものは、健やかに育っている自分だということに気づかせ、親への感謝の気持ちとこれからの自分について考えさせる。	手紙 発表
終末	6. 親の思いや願いを聞く。	自分 父母 教師	・親の思いや願いを聞くことによって、児童の価値を高めると共に、感謝の気持ちをもって自分の生や生命をふくらませ、明るく生きようとする意欲につなげたい。	表情

# 第1学年 道徳学習指導案

平成19年11月22日(木)1校時

1年3組 男子17名女子13名計30名

授業者 桑江 和子

## 1. 主題名 「おかあさんのたからもの」 3ー(2)

## 2. 題材設定理由

生活科において「いのちのあさがお」の種を蒔き大切に育て、きれいな花に喜び、種取りを楽しんだ体験を持つ。また同じ1年生であるという発達段階から共感できる場面を通していのちについて考えさせたい。

1年生という発達段階を考慮し、こうすけくんの死について、深くとらえさせることはせず「お母さんにとって子どもは、笑っている・泣いている・病気の時でも宝物である」ことに気づかせるようにする。

## 3. 本時の展開

### (1) 本時のねらい

親はかけがえのないものとして宝物の自分をととても大事にしているということに気づき、親とのつながりを見つめ直し、育ててくれたことに感謝することができるようにする。

### (2) 授業仮説

実話「いのちのあさがお」に触れることによって、あさがおの種に隠された深い意味を知り、「いのち」の大切さに気づくことができるであろう。

### (3) 指導過程

過程	学習内容	指導の手立て
導入	1. 「たねたねそと」を歌いあさがおの学習を思い出す。	・身体表現を取り入れた曲に乗って楽しくあさがおの学習と体験を想起させる
展開	2. 「いのちのあさがお」の範読を聞いて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生になって、みんなとあさがおの種を蒔いたとき、こうすけくんは、どんな気持ちだったでしょう。</li> <li>・夏休みにまた入院したとき、こうすけくんは、どんな気持ちで、あさがおに水をやっていたのでしょうか。</li> <li>・毎日毎日泣いていたお母さんが、ふと庭でこうすけくんのあさがおが咲いているのを見たとき、どんなことを思ったのでしょうか。</li> <li>・次の年の春に、こうすけくんの花がきれいに咲いて種が取れたときお母さんは、どんなことを思ったのでしょうか。</li> </ul> 3. 自分の思いをこうすけくんのお母さんへ手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の頃を振り返りながら話し合いを進める。</li> <li>・お母さんの看病の様子を知らせ、自分の病気の時のお母さんについても考えさせるようにする。 また、自分だけのいのちではないことに気づかせる。</li> <li>・こうすけくんが育てていたあさがおであることに気づかせる。</li> <li>・種取りしたことを思い出させて、いのちは、巡っていることに気づき、いのちの愛おしさを感じられるようにする。</li> <li>・学習したことの感想をこうすけさんのお母さんに伝えられるように助言する。</li> </ul>
終末	4. 周りの人との目に見えないつながりについてまとめる。	・親にとって子どもは、笑っているとき、泣いているとき、病気の時、どんなときでも宝物に変わりはないということをまとめる。

## 道徳学習指導案

平成 19 年 11 月 28 日(水)第 1 校時

第 1 学年 3 組 男子 17 名女子 13 名計 30 名

指導者 桑江 和子

1. 主題名 みんなたからもの 内容項目 3—(2)生命尊重

2. 資料名 あっちゃんのあさがお

3. ねらい

生きることを喜び、命を大切にする心情や態度を育成する。

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領第 1 学年および第 2 学年の内容における視点 3「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の内容項目(2)「生きることを喜び、生命を大切にする心を持つ」という価値項目に関わる。

目標の(1)によると「人間は、生命のかけがえのなさに気づき、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶことにより、自他の生命の尊さや生きることのすばらしさの自覚を深めることができる」とある。

児童の命にかかわる悲惨な事件や事故、災害が多発する中で、命の教育を早急に取り上げ、児童に考えさせていくことは重要である。

また、1 学年から、生命尊重の価値を深化させることは、「命や存在そのものを大事にし認めていく」という心情の土台作りとして意義深いと考える。

(2) 児童観

自分に関わるアンケートの結果によると、「生まれてきて良かった」と感じている児童は 97%で、自己の存在を肯定的に捉えている児童がほとんどであった。また、「自分のことが好きである」(73%)「自分には良いところがある」(70%)「何かをする時にうまくできる」(73%)となり自己を肯定している児童が 7 割で 3 割の児童が自分に自信がないと思っていることが推測される。

人との関わりについてのアンケートの結果によると友達に対して「がんばってねと励ます」とする児童は 87%いた。「友達のことが好き」は 74%であり、1 年生においては決して高い数値とは言えない。

また、現実には、友人との関わりの中で、言葉がけが足りなかったり、お互いが譲らなかったりと些細なことから諍いが起こったりすることが多々見受けられる。

そこで、児童が自己肯定感を基盤に他者に対しても大切な存在なのだという事に気づき、自他を大切にできるように育てていきたいと願う。

### (3) 資料について

総合単元的な取り組みにおいて「わたしは大切な存在なんだ」ということに気づかせ実感させた上で「自分だけではなく友達も大切な存在なんだ」ということに気づかせることにより生命尊重の心を育てることがねらいである。そのため、今回の授業における資料は、次のような条件が必要であると考えた。

- ① 「どれもみんなステキだね」ということに気づかせたり考えたりする内容である。
- ② 何か欠点があってもステキといえるのか考えさせる揺さぶりのある内容である。
- ③ 1年生という発達段階を踏まえ、児童が共感しやすく考えやすい内容である。

上記を踏まえ、資料を作成した。

資料は、あさがおの話で4つの場面で構成している。あさがおの話にしたのは、児童が種から大切に育てきれいな花を咲かせ、関わりが深いことから自らの体験をもとに話を展開できると考えたからである。3場面で「自分が1番」と主張する3つのあさがおが登場する。誰が1番なのかという話し合いの中で「どれもそれぞれの良さがあり、みんないい」ことを考えさせる。4場面に欠点をもちおどおどしているあさがおが「私もステキって言っている」と登場する。欠点をもちおどおどしているのがあさがおであるため、1年生にとっては、擬人化し考えやすいと思われる。見かけの善し悪しや欠点、好き嫌いで存在の大事さが決まるのではないということを考えさせていく。

### (4) 指導観

#### ①総合単元的な指導について

生命尊重の学習の領域は、学校生活の中のあらゆる場面と関連してくる。そこで、道徳の時間を核として、総合単元的な取り組みを行う。生命尊重の価値を深化させる際に、他律的な発達段階にある1年生においては、心情を育てるための体験活動や道徳的行動のスキルを修正・向上しながら実践に向けるための場を設定することがより効果的である。そのため、生活科や国語学習と関連を図り道徳の時間で深めた価値について学級活動で実践に結びつけていけるようにしたい。

#### ②資料の展開の工夫

「あっちゃんのあさがお」を読み物資料として扱うのではなく、児童に自らの体験や考えを語らせながら話を展開していく。そのことにより、児童がよりあっちゃんやあさがおと同化し、共感しながら考えることができるのではないか。その中で、1年3組の子どもたち一人一人が大切なんだということを考えさせたい。

#### ③モラル・スキル・トレーニング

小学校学習指導要領解説道徳編に明示された「児童の発達段階や特性を考慮した創意工夫ある指導をすること」を受けて本時では、「道徳的实践力」を涵養を目指すためにモラル・スキル・トレーニングを取り入れた。ここでは、友人関係作りのモラル・スキルを身につけさせたい。ピンクの朝顔にかけてあげる暖かい言葉を考え実際に行ってみることを通して、実践力に結びつけたい。

5. 単元構想図

自分もお友達も大切にする児童

総合単元的な取り組み

<教科・領域>

学級活動

<魔法のことば>

相手の気持ちが温くなるような「魔法の言葉」探しをして、暖かい言葉がけを習慣化しようとする態度を育てる。

学級活動

<輝く宝物>

保護者にとって宝物（大事、大切）の子への願いがあることを知り、これからどのような生活や態度を心がければよいかわかる。

国語

<ずっとずっと大すきだよ>

命には、限りがあるということをしり、精一杯いろんなことに取り組むことの大切さに気づく。

生活

<ぐんぐんそだて>

大切に育てた命のあさがおの成長を振りかえり、まとめる。

国語

<動物の赤ちゃん>

自然に息づく生命の神秘に気づく。

国語

<すきなものおしえて>

発表したり、質問したりできる。

国語

<みんなに知らせたいこと>

自分の宝物について、発表することができる。

<要となる道徳の時間>

主題 みんな宝物

3-②

資料 あっちゃんのあさがお  
<ねらい>

見かけは違ってもどの子も宝物（大事、大切）なんだということがわかる。

<評価>

みんな宝物なんだということに気づくことができたか。

主題 お母さんの宝物

3-②

資料 命のあさがお  
<ねらい>

親はかけがえのないものとして宝物をととても大事にしている。

<評価>

親は宝物をかけがえのない物と考えていることがわかる。

主題 みんなの宝物

3-②

資料 親からの手紙  
<ねらい>

親の宝物（大事、大切）なものは、自分だということがわかる。

<評価>

親の宝物は、自分であるということがわかる。

<意識の流れ>

○自分を大切にしたいな。自分にできることは、なにかな。  
○言葉がけからがんばってみようかな。

○お友達に優しくしたいな。  
○お友達もみんな大切なんだな。

○お友達も同じかな。  
○お母さんは、病気の時も私を大事に育ててくれたんだ。私は家族にとって大切なんだ。

○お利口なときだけ宝物なのかな？  
○私は、大切なんだ。  
○お父さんとお母さんの宝物は、わたしだったんだ。  
○生まれたとき、周りは、喜んでくれたんだ。  
○お父さんやお母さんの宝物は何かな。

## 6. 単元計画

総合 単元名	みんなたからもの 3-② 生命尊重	ね ら い	自分も自分の周りのお友達も大事な存在で あり、大切にしていこうとする態度を育て る。
-----------	-------------------------	-------------	--

流れ	総合単元的な ねらい	教科 領域	単元名 題材・主題名	内容
気 づ く  見 つ め る     生 か す	生きることを 喜び、命を大切 にする心情を 育てる。	生活科	ぐんぐん育て	あさがおの世話や観察を通して、植物の成長 を喜ぶ。
		国語	動物の赤ちゃん	誕生の不思議さと神秘について気づく。親と の関わり、絆を知る。
		国語	好きな物教えて	自分の好きな物を発表し、質問に答える。お 友達の好きな物について質問する。
		国語	みんなに知らせ たいこと	自分の宝物を発表し、質問に答える。お友達 の宝物について質問する。
		道徳	みんなの宝物	自分の宝物から親の宝物を予想し、実際の手 紙を親に読んでもらい、親の宝物は自分であ り大事な存在であることに気づく。
		道徳	お母さんの宝物	「命のあさがお」を資料をもとに、幼くして 命を失ったわが子への母さんの思いを知り、 親はどんな時でも宝物を大事に育てること に気づかせる。
		道徳	みんな宝物	「あっちゃんのあさがお」の資料をもとに自 分もお友達も大切な存在であるということ に気づく。
	いきいきと楽 しく生活しよ うとする態度 をそだてる。	学 級 活動	輝く宝物	手紙から親の願いを知り、実際に願いがかな うようにどのように生活していけば良いの か考え、トレーニングしていく。
		学 級 活動	魔法の言葉	「水からの伝言」を資料にふわふわ言葉とち くちく言葉集めをしてこれから気持ちよく 過ごせるように魔法の言葉の使い方をトレ ーニングしていく。

## 7. 本時の指導

### (1) 目標

「あっちゃんのあさがお」を通して、自分もお友達も大切だということに気づき

自分もお友達も大切にしていこうという心情を育てる。

## (2) 授業仮説

- ①あさがおを育てた体験を想起させることにより，児童はあっちゃんに共感でき，学習への意欲をもつことができるであろう。
- ②発問を工夫することは「それぞれに大切」という価値の習得へ導く際の児童への手だてとして有効であろう。
- ③モラル・スキル・トレーニングを導入することで，児童の実践意欲へとつなげることができるであろう。

## (3) 展開

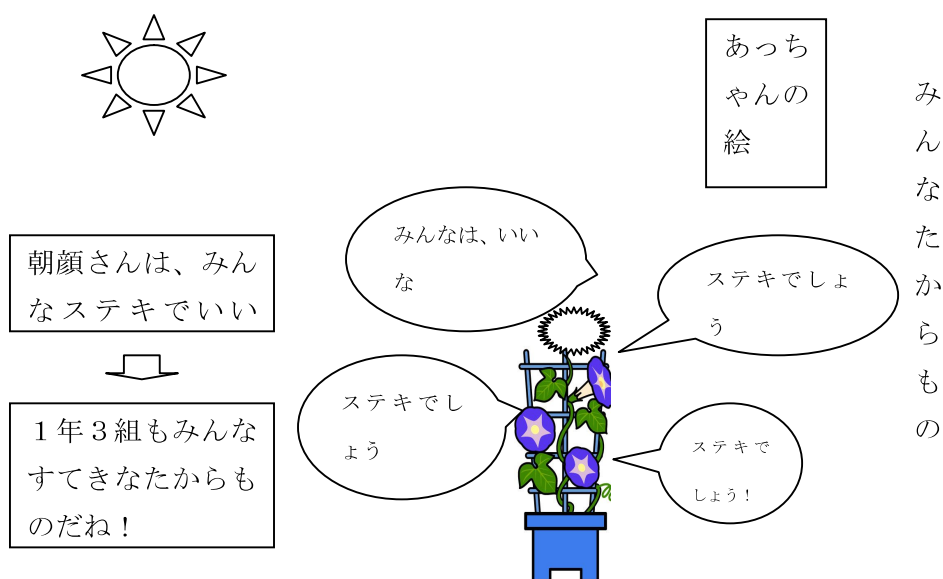
	学習活動・内容	予想される児童の反応	教師の支援と指導上の留意点	・資料 ◇評価
導入	・「たねたねそっと」を歌い，朝顔を育てたことを思い出す。	・紫の花が咲いたよ。	・朝顔の写真を用意する。	・CD ・歌詞
展開 前段	<p>・「あっちゃんの朝顔」の話を聞く。</p> <p>どんなふうにとだてたかな。</p> <p>・あっちゃんもみんなと同じように大切に育てたことを知る。</p> <p>・ 青，赤，紫の朝顔が登場する。</p> <p>どの色が好きですか。</p> <p>・青，赤，紫の朝顔が自分が1番だと主張しあっていることを知る。</p> <p>青も赤も紫もみんなステキだね。</p> <p>・ピンクの朝顔が登場する。</p>	<p>・水をかけてあげたよ。</p> <p>・肥料をあげたよ。</p> <p>・台風の時中に入れたよ。</p> <p>・かたつむりもたいじしたよ。</p> <p>・あっちゃんの宝物だね。</p> <p>・自分の朝顔の色だから○が好き。</p> <p>・喧嘩は，よくないよ。</p> <p>・みんないいんだから。</p> <p>・いばっているよ。</p> <p>・花がきれいじゃなくてかわいそう。</p> <p>・ピンクさんはステキじゃない。</p>	<p>・生活科であさがおを育てた体験を思い出させる。</p> <p>・児童の発言を活かして話を展開するようにする。</p> <p>・色に対する思いを話し合わせる。</p> <p>・自分だけが1番と主張するとどうなるのか考えさせる。</p> <p>・それぞれの良いところを見つけるように助言する。</p> <p>・一人だけ寂しい思いをしているあさがおの気持ちを考えさせる。</p>	・ワー ク ノ ート

後 段	<div>ピンクさんになんて声をかけてあげますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンクさんにどのように声をかけるか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いえないかもしれない。</li> <li>・きれいなピンクでステキだよ。</li> <li>・小さくてかわいいからステキだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークノートに記述させ、援助していく</li> </ul>	◇ピンクさんへの言葉を考えることができたか。
	<div>ピンクさんも青、赤、紫のあさがおさんと同じようにステキだね。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声のかけ方について話し合う。</li> <li>・1年3組についてかんがえてみる。</li> <li>・みんながステキなクラスになれるように心がけるようにする。</li> <li>・今日の授業の感想をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい言い方がいいね。</li> <li>・声も優しくゆっくりがいいね。</li> <li>・「〇〇さんステキですね。」「ありがとう。〇〇さんもすてきです。」</li> <li>・朝顔さんが仲良くなって良かったです。3組も仲良くしたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任はピンク役になり、ロールプレイングしていく。</li> <li>・一人一人が宝物でこれから、みんなが、ステキと思えるクラスの仲間になれるように助言する。</li> <li>・机間指導していく。</li> </ul>	◇隣に声をかけることができたか。  ◇ワークノートに記述できたか。

#### (4)評価

自分もお友達も大切だということに気づくことができたか。

#### (5)板書計画





## 第 1 学年 道徳学習指導案

平成 19 年 6 月 3 日（日）2 校時

1 年 3 組 男子 17 名 女子 13 名 計 30 名

授業者 桑江 和子

### 1. 主題名 「みんなのたからもの」 3－（2）

### 2. 題材設定理由

子供たちは、「自分の命は、大切である。」「世界にたった 1 つしかない命」ということを知っている。しかし、自分自身を振り返って、どれだけ大切なのか、なぜ大切なのかということについて、深く考える機会はない。

そこで、自分が生まれた時の様子を教えてもらったり、「あなたは、親にとってかけがえない大切な宝物」というメッセージを家族からのお手紙を通して受けとれるようにする。その手紙をきっかけとして子供たちは、自分の命が家族の温かい気持ちに支えられていること、家族をはじめとした周りの人たちが自分の誕生を喜んでくれたことに気づくと思われる。一番身近な人からの温かい手紙にふれた子供たちは、自分の命の大切さを再認識し、自ら命を輝かせていこうとする気持ちを持つていくことができるようになると考え、本主題を設定した。

### 3. 本時の展開

#### （1） 本時のねらい

親の宝物は、健やかに成長している「自分」であることに気づき、感謝の思いやこれからの自分について

考えることができる。

#### （2） 授業仮説

父母からの手紙を読むことによって、親の宝物は、健やかに成長している「自分」であることに気づき、父母への感謝の思いやこれからの自分について考えることができるであろう。

#### （3） 指導過程

過程	学習内容	かわり	指導の手立て	評価
導入	1. 自分の「たからもの」をワークシートに書いて紹介し合う。	自分 友達	・一人ひとりの子供が自分の「たからもの」を主体的に考えることができるように助	ワーク シート

		資料	言する。	発表
展 開	2. みんなで出した「たからもの」を見て「たからもの」とは何か話し合う。	自分 友達 「宝物」	・「たからもの」とは、自分の思いや願いと深くつながっていることに目を向けさせる。	発表 挙手
	3. 親にとっての「たからもの」は何か予想する。	自分 友達	・予想なので、いろんな意見が出てても良いことを知らせる。	発表
	4. 自分が生まれた時の様子を書いた家族からの手紙を保護者に読んでもらう。	自分 手紙	・自分が幼い頃の写真を見たり、手紙を読んだりすることで、自分の命もみんなの祝福の中で誕生し、愛に育まれて生きていることを再認識させる	目の輝き
	5. 親へ感謝の気持ちを込めて手紙を書く。	自分 家族 手紙	・親のたからものは、健やかに育っている自分だということに気づかせ、親への感謝の気持ちとこれからの自分について考えさせる。	手紙 発表
終 末	6. 親の思いや願いを聞く。	自分 父母 教師	・親の思いや願いを聞くことによって、児童の価値を高めると共に、感謝の気持ちをもって自分の生や生命をふくらませ、明るく生きようとする意欲につなげたい。	表情

## 第 1 学年 道徳学習指導案

平成 19 年 11 月 22 日（木）1 校時

1 年 3 組 男子 17 名 女子 13 名 計 30 名

授業者 桑江 和子

主題名 「おかあさんのたからもの」 3－（2）

### 2. 題材設定理由

子どもたちは、実際に「こうすけくんの命のあさがお」の種を蒔き大切に育て、きれいな花に喜び、種取りを楽しんだ体験を持つ。また同じ 1 年生であるという発達段階から共感できる場面を通していのちについて考えさせたい。

1 年生という発達段階を考慮し、こうすけくんの死について、深くとらえさせることはせず「お母さんにとって子どもは、笑っている・泣いている・病気の時でも宝物である」ことに気づかせるようにする。

### 3. 本時の展開

本時のねらい

（1） 親はかけがえのないものとして宝物の自分をととても大事にしているということに気づき、親とのつながりを見つめ直し、育ててくれたことに感謝することができるようにする。

（2） 授業仮説

実話「いのちのあさがお」に触れることによって、あさがおの種に隠された深い意味を知り、「いのち」の大切さに気づくことができるであろう。

（3） 指導過程

過程	学習内容	指導の手立て
導入	1. 「たねたねそっと」を歌いあさがおの学習を思い出す。	・ 身体表現を取り入れた曲に乗って楽しくあさがおの学習と体験を想起させる
展開	<p>4. 「いのちのあさがお」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>(ア) 1年生になって、みんなとあさがおの種を蒔いたとき、こうすけくんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>(イ) 夏休みにまた入院したとき、こうすけくんは、どんな気持ちで、あさがおに水をやっていたのでしょ。</p> <p>(ウ) 毎日毎日泣いていたお母さんが、ふと庭でこうすけくんのあさがおが咲いているのを見たとき、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <p>(エ) 次の年の春に、こうすけくんの花がきれいに咲いて種が取れたときお母さんは、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <p>5. こうすけくんのお母さんへ手紙を書く。</p>	<p>・ 4月の頃を振り返りながら話し合いを進める。</p> <p>・ お母さんの看病の様子を知らせ、自分の病気の時のお母さんについても考えさせるようにする。</p> <p>また、自分だけのいのちではないことに気づかせる。</p> <p>・ こうすけくんが育てていたあさがおであることに気づかせる。</p> <p>・ 種取りしたことを思い出させて、いのちは、巡っていることに気づき、いのちの愛おしさを感じられるようにする。</p> <p>・ 学習したことの感想をこうすけさんのお母さんに伝えられるように助言する。</p>
終末	4. 周りの人との目に見えないつながりについてまとめる。	・ 親にとって子どもは、笑っているとき、泣いているとき、病気の時、どんなときでも宝物に変わりはないということをまとめる。

## 学級活動学習指導案

平成 19 年 11 月 29 日(木)第 1 校時

第 1 学年 3 組 男子 17 名女子 13 名計 30 名

指導者 桑江 和子

8. 題材名 かがやくたからもの

9. 題材について

これまで、道徳の時間を通して「自分と同じようにお友達も大切な存在である」ということを学習してきた。

それを受けて今回は、保護者からの手紙により、具体的な子ども像を知り、そこから自分の行動指標を見つけさせていく。

1 年生という発達段階から、具体的な行動指標を見つけさせる手だてとして友人関係における「優しい言葉がけ」のモラル・スキル・トレーニングを取り入れる。

10. 本時の学習

(1) 目標

友人関係における優しい言葉がけのモラル・スキル・トレーニングを通して、これからの行動指標を考え、取り組もうとする態度を育てる。

(2) 授業仮説

保護者からの手紙とモラル・スキル・トレーニングを手だてとすることによって、児童は具体的な行動指標を持つことができるであろう。

(3) 展開

過程	学習活動	留意点
導入	・手紙を読みこれからの行動について話し合う。	・具体的な子ども像(〇〇な子)と明記された手紙を準備する。
展開	・気分のすぐれない子への言葉がけについて話し合いロールプレイする。 ・良かった表現を取り上げ、交代でモラル・スキル・トレーニングを行う。	・担任対発表者でのロールプレイを行い、かけてあげる言葉や声のかけ方や態度について話し合い、より優しく心地の良い表現にしていくようにする。 ・実際に役割を交代しながらトレーニングさせる。
まとめ	・ワークノートにこれからの行動指標を考えて記述する。 ・自分のできそうな行動指標を発表し、保護者へ返信の手紙を書く。	・ワークノートには、各自保護者からの具体的なメッセージを記述しておく。 ・お友達の発表を参考にしていけるように助言する。

(4) 評価 行動指標を立てることができたか。

## 学級活動学習指導案

平成 19 年 11 月 29 日(木)第 1 校時

第 1 学年 3 組 男子 17 名女子 13 名計 30 名

指導者 桑江 和子

1. 題材名 かがやくたからもの

2. 題材について

これまで、道徳の時間を通して「自分と同じようにお友達も大切な存在である」ということを学習してきた。

それを受けて今回は、保護者からの手紙により、具体的な子ども像を知り、そこから自分の行動指標を見つけさせていく。

1 年生という発達段階から、具体的な行動指標を見つけさせる手だてとして友人関係における「優しい言葉がけ」のモラル・スキル・トレーニングを取り入れる。

そのことにより、学級集団における友だちとの関わり方をより良い集団作づくりをめざす。

3. 本時の学習

(1) 目標

友人関係における優しい言葉がけのモラル・スキル・トレーニングを通して、これからの行動指標を考え、取り組もうとする態度を育てる。

(2) 授業仮説

保護者からの手紙とモラル・スキル・トレーニングを手だてとすることによって、児童は具体的な行動指標を持つことができるであろう。

(3) 展開

過程	学習活動	留意点
導入	・手紙を読みこれからの行動について話し合う。	・具体的な子ども像(〇〇な子)と明記された手紙を準備する。
展開	・気分のすぐれない子への言葉がけについて話し合いロールプレイする。  ・良かった表現を取り上げ、交代でモラル・スキル・トレーニングを行う。	・担任対発表者でのロールプレイを行い、かけてあげる言葉や声のかけ方や態度について話し合い、より優しく心地の良い表現にしていくようにする。  ・実際に役割を交代しながらトレーニングさせる。
まとめ	・ワークノートにこれからの行動指標を考えて記述する。  ・自分のできそうな行動指標を発表し、保護者へ返信の手紙を書く。	・ワークノートには、各自保護者からの具体的なメッセージを記述しておく。  ・お友達の発表を参考にしていけるように助言する。

(4) 評価 行動指標を立てることができたか。